島松だより

日本キリスト教団島松伝道所
〒061-1351　北海道恵庭市島松東町4丁目1－8
牧師辻中徹也・辻中明子
電話･FAX (0123)36-7275
http://homepage2.nifty.com/simamatu/

それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。
Ⅰコリントの信徒への手紙Ⅰ 12章22節

題字　田川 正悦

ゆっくり時を刻む

日本キリスト教団島松伝道所
牧師　辻中　徹也

「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」
（ルカによる福音書　第一章三八節）

神の前に新しくされた「私」を生きる

塩見ひかりさんがペンテコステ礼拝で受洗された。「走ってきたことは無駄ではなかった」「イエス様と向き合っていきたい」と信仰を告白し一番若い高校生の会員となった。大きな喜びだ。

車で二時間ほどをかけて日本海に面した余市町から礼拝や行事に家族で参加されている。島松は恵庭市にあるが、隣接する札幌市や北広島市、千歳市にも会員や関係者がおられる。今年、太平洋側の遥か東、釧路市に単身赴任となった大西真言さんは四時間も特急に揺られ毎月二度、礼拝に家族と出席されている。夏が過ぎた頃、「秋刀魚送ったから、みんなで食べましょう」と電話があった。日曜日、炭火焼きの秋刀魚、刺身、豚汁、山梨のぶどうのご馳走を囲んだ。皆大喜び。礼拝をともにし、食卓を囲む。こどもたちは礼拝堂で遊びまわる。豊かなゆっくりした時間。みんなここで新しくされ、日常へ遣わされていく。今年、嬉しいことに恵庭市に住む方が札幌市の友人と礼拝に出席し始められた。大きな励みだ。

しままつ野菜だより

この夏、「しままつ野菜だより」が本格的に動き出した。朝早くトウモロコシを収穫し、その場で発送作業を行なった。収穫されたものが地元の人の口に入らず都市へ出て行く。美味しく新鮮でこだわりをもって作られた野菜を地元の人にと、吉田俊二さんと数件の農園が恵庭アグリ企画という地産地消をめざす収穫農場のグループを立ち上げられた。住んでいる土地で取れたものを食べるのが身体にも良い。朝もぎのトウモロコシも、じゃがいも（きたあかり）も凄く美味しい。物産会社が協力して下さるので安心してご注文いただければと願っている。そもそも、島松宣教協力募金で支え続けて頂いている私たちが、会堂・牧師館建築のために全国募金を行なうとどうなるのだろうという素朴な不安をクリアするために、できることを考えて始めた業が「しままつ野菜だより」である。これまで与えられてきたつながりを活かすことを願い、思いがけない応援を地元に与えられた。農と食の理想を実践する恵庭アグリ企画の方々との交流をこれからも深めていきたい。

木の会堂再生プロジェクト

音楽家でもある建築家の畠中秀幸さんにコンサートの相談をした。湧き出るように建築の話になった。かつてコミュニティーの拠り所だった教会が、関係性を喪失している社会の中で、人と人をつなぐ場になる建築。「実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」（ルカによる福音書十七章二十一節）そんな活動（ソフト）を展開しながら、自分たちも作業を手伝うセルフ･ビルドも取り入れて建物（ハード）があとから追いかける。教会の地域での役割を「関係性の再生」をキーワードに構想することに思いを馳せた。その道行きを想うと多様な出会いが生まれそうで楽しくなる。礼拝をはじめ、これまでの活動もつなぎ合わせて、地域の場作りを先ず始めていく。必要な空間をあとから作っていく。将来型は決めておく必要があるが、手が届く範囲の空間の仕上がりをすぐ味わえ、効果を楽しめる。ゆっくりな私たちに神様があつらえて下さったような構想だ。木の会堂を神と人、人と人をつなぐ場として再生させていきたい。しっかり組まれた会堂の躯体は人と人をつなぎ始めている。何千万円という峰を見上げて動けない私たちにのしかかる重さを負いながら、もう始まっているプロジェクトのドキュメントを追いかけ始めた。

はじめに

まず、みなさんに島松伝道所島松伝道所は全国募金開始から20年を迎えることが出来たことに心から感謝を申し上げます。私たちだけの力では、この20年の歴史を歩むことは出来ませんでした。全国の教会や教会に連なる方々の篤い祈りとお支えによって、私たちは島松らしく歩むことが許されました。本当に感謝で一杯です。これからも、みなさまからの祈りに支えられて、「どの人もその人らしく歩む」教会形成、そして地域の方々への宣教を大切に進んで生きたいと思います。どうか、主にある皆さまとのつながりがさらに豊かなものになりますように祈ります。　２００４年台風被害後、神さまからの声として会堂建築について取り組み始めました。しかし、順調というにはあまりにもゆっくり、けれども建築委員会の立ち上げと自己資金作りを開始することが出来ました。まだ、教会全体としては具体的な決定をするまでには至っていませんが、2007年度「総会」に向けた備えの歩みをしています。　このような中で、それぞれ建築委員の方々がどのような思いでいるのかをお伝えして、今回の特集としたいと思います。

現在の老朽化した会堂。
風情はあるが、課題も多い。

1 島松のおじいさんへ

関口　夏代

『ちいさいおうち』という絵本があります。のどかな郊外にぽつんと建ったかわいい家は時が経ち、住む人を失いました。まわりの自然はビルに変わり、時代の変化に取り残されたが、家を建てた人の子孫が偶然に前を通り、子供の頃のかすかな記憶に助けられ、トレーラーに引っ張られて丘の上に引っ越して昔の姿を取り戻すというお話しです。

島松の教会は、壁はペンキがはげかかってはいるが淡いピンクで三角形の屋根は赤色で癒し系。昔は目立つモダンな建物だったのでしょう。

当時、島松はのどかな農村地帯でしたが、今ではまわりに家が建ち、創立当時に植えた庭の木々は成長し通りから会堂は見えなくなり、ひっそりと建っています。そのせいか新興宗教が問題になったときは、人々に怪しい印象をあたえたこともあったそうです。

私が初めて教会を訪ねた時、「島松の教会はどこですか。」と歩いていた人に尋ねたました。「この道をずっと進んだ丘の上に見えるよ。」と、おじいさんは教えてくださいました。進めども丘も教会も見当たりません。ようやく見つけてやっとわかりました。住宅が並ぶその道は、確かになだらかな坂（もとは丘かも…）でした。

おじいさんは昔の教会の姿を覚えてくれていたのですね。おじいさん道を教えてくれてありがとう。ご縁があって私は丘の上のちいさいかわいい教会の住人？になりました。

いつか「教会はあそこだよ。」と誰に聞いても答えてくれるような教会に建物も中身も再生します。最初に建てた方々と同じ気持ちで。

道を教えてくださったおじいさん、そしてみなさん、ぜひ遊びにきてください。

2 しままつ流会堂建築

関口　章宏

『この会堂はしっかりとした木で出来ているので天井を外すと、音響に優れ礼拝にも良い効果が出るでしょう』

会堂建築の話し合いで新築か？リフォームか？それぞれイメージをもっているが、まだ決まってはいない。会堂リフォームと言うとピンとこないが、五十年前に建てられた会堂は、建築家に『これを是非使いたい』と言わせる程丈夫な木の骨組みで支えられているらしい。建築家の提案するリフォームとは、単なる補修や修繕ではなくその躯体を利用したみんなが愛着のあるこの会堂の良さを活かした再生である。

建築家の提案により、改めて建築の在り方について考える機会が与えられました。話し合いを何度か重ね、自分の中では、会堂建築とリフォームの接点が何となく見えてきた様に思う。

締め切っても風通しの良すぎる会堂は暖房を入れてもなかなか暖まらず昨年度の灯油高騰は深刻な問題であった。そこで冬前に、大工さんの指導の下、窓や床の隙間をシリコンで埋めた。子供も大人も集まって背の高さや力に応じて持ち場が自然と決まり、和やかに楽しく作業し、良い時を持つことが出来ました。効果があったと実感。こんな感じで、出来るところは自分たちの手で少しずつ変化させていく方法（セルフビルドと言うそうです。）もあるそうだ。セルフビルドの場合、一般的に見て通常よりも二割～三割コスト削減にも繋がるらしい。何事においても無理をせず、一人ひとりの意見を大切にゆっくり歩む島松にとって身の丈にあっているのかも知れない。今年はこの様な事を、皆で話し合い、深めていければと思う。

島松会堂物語は始まりました

《特集》

島松会堂建築物語

プロローグ

２００４年に各地を襲った台風１８号が去って２年が過ぎました。　新たな夢に歩み出した「しままつ」のそのあと。

3

釧路からも感じる
・・・島松らしさ

大西　真言

昨年（二〇〇六年）十一月のある日、札幌から出張して来た教会員のKさんと夕食をともにした。

自然と島松の会堂建築の話題となったが、〇五年に立ち上がった建築準備委員会の委員長として何もできないまま、翌春釧路に転勤・単身赴任となったこともあり、気になっていた。

Kさんは、教会にごく近い職業もあって、建築に向けて「信じて行動しなければ何も始まらない」という、ある意味非常に教会的で情熱的な思いを押さえ切れないでいた。だが、ある教会員の率直な言葉を通して、「経済的足固めをしなければ踏み出せない」という市井ではむしろ常識的ともいえる、慎重に傾く教会員の心理も理解できてきたという。

意見を交わし、ぶつかり合うことで空中分解してしまうのではなく、和解へと揺り戻していくことができる。これも島松という小さい群れならではのことだと思う。

Kさんからは、設計でおつきあい頂いているスタジオ・シンフォニカ社からのセルフ・ビルドの提案も聞いた。我々がそれをどれだけ導入できるかはじっくり考えればよい。ただ私は、同社が、集い交わる場としての教会の可能性を共に考えようとしてくれている姿勢に心を留めたい。

単なる商売の対象ならば、通常のやり方でさっさと設計して建ててしまう方が効率的なはずだからだ。〇六年の総会で、私たちは五年で一千万円を積み立てるという目標しか決議できなかった。だがその後、「野菜便り」の取組が始まり、今、セルフ・ビルドの提案があった。自分達がどれだけ捧げられるかを地道に確認しながらも、つながったり、支えたりしてくれる人達の存在をも確かめながら進む。思えばこれも、いかにも島松らしい歩みと思うのである。

会堂建築への道　取り組みその①
「しままつ野菜だより」の収穫風景

会堂建築への道　取り組みその②
寒さ対策作業中！！

会堂建築への道　取り組みその③
２００７．１．１３　音楽のお年玉
ニューイヤー親子コンサート

4 会堂建築にむけて

松坂晴美

昨年十二月に、島松伝道所の会堂で、ゴスペルのコンサートが催されました。毎週、この会堂で練習をされているサークルの皆さんの、お礼と発表という事で、会堂には、並べられた椅子以上の人々が集まりました。

会堂に響く歌声は、手に持っているパンフレットにも伝わるほどで、この会堂、まだまだいける!!と実感しました。地域にむけて、多くの事を発信してゆく教会作り。私たちは、いろいろな思案や夢を語りはじめました。五十年以上この地に立ち続ける教会は、風雪や台風で傷み続け、修理をしては、また別の所が痛み出している、といった状態です。今年の冬は、教会員の手で窓や床のすきまを埋める作業をしました。少しでも暖かい教会であるために、少しでも節約できるように、試行錯誤しています。全国の多くの方々の支援に助けられ、献金によって成り立っている島松教会の財政を考えると、どんなことがあっても、まず耐えて、我慢をしていくしかないような、まして会堂建築は、夢物語のようで、とても大それた事業に思えていました。

しかし、このまま傷み続ける会堂を放置しておく事もできません。修理や維持していくにも、多くの出費がかかってゆきます。私たちは、実現できるかどうかわからないけれど、会堂建築に向けて自己資金を作ろうと会堂建築献金を始めました。そして、教会協議会や、アンケートを重ねて、今の教会の良い所、直して欲しい所など意見を出し合い、少しずつ、具体的な教会作り(内側も外側も)を始めている、といって良いでしょう。

古いけれど、手を加えれば、会堂は十分使える、と建築士さんの診断をうけ、この会堂と共に、さあ、次は?と夢は膨らんでいます。

会堂建築への道　取り組みその④
ハート・オブ・プレジャーによるゴスペル・ミニ・ライヴ。幼児さんから高齢者まで満席！

New member 新教会員紹介

塩見ひかり さん
高校２年生

洗礼 受けました

私が洗礼を受けたのは、教会が大好きだからです。聖書を読んで、讃美歌を歌って、友達と遊ぶというのがとても楽しくて、教会に出会えてよかったと思います。

しかし、小さい頃は教会が好きではありませんでした。学校の友達は教会に行っていないのになぜ私だけ行かなければならないのか、休みの日くらい気が済むまで寝ていたいのに、といつも考えていました。小学校の時に行っていた教会では同年代の子はあまりいなくて、教会なんか行ったってどうせつまらないと思っていました。

それでも親の薦めで中学校はキリスト教の学校に進学しました。キリスト教の学校だから自分のように教会に行っている子がいるかもしれないと期待していましたが、実際には朝の礼拝や帰りのお祈り、聖書の授業以外は他の学校と同じで、クラスメイトも期待通りではありませんでした。それなのに朝は他の人より早起きをして通わなければいけなくて、行ったことをずっと後悔していました。

そんなとき、教会の友達に中高生の春の集いというのに誘われました。みんなそんなに私と年が変わらないのに、当たり前に讃美歌を歌い、聖書を読んで勉強していることに驚かされました。その中でたくさんの友達や牧師と仲良くなれたし、今までで一番まともに聖書と向き合うことが出来ました。そのときから、今まで向き合おうとしていなかった聖書にもっと目を向け、教会や中高生の行事にももっと参加していきたいと思うようになりました。教会も島松教会になって仲のいい友達も多くなって、今では教会にいくのが楽しいです。ずっと後悔していた中学校のことも最近になってやっとこれで正しかったんだと思えるようになりました。これからは今までよりももっと神様と関わっていきたいと思ったので洗礼を受けました。このことでもっと聖書と向き合うことが出来たらいいなと思ってます。

しままつ怪童ものがたり

ときれときれだけど…パート3

by 大西由香里

しままつの怪童達もなんだかここ数年でぐっと成長した感じです。小さかった なごみちゃんも一年生となりました。

秋の「教会バザー」や「会堂のすきま風対策工事？」の時には、すごく活躍してくれて、なんだかその成長ぶりにたくましさ感じました。そんな、子ども達に「最近どお？」（こういう事を聞くこと事態、十分おばさんらしい…）ってインタビューしてみました。

《インタビュー1 ～子ども達10人》

Q：みんなは、もう中学生や高校生、日曜日はゆっくり寝ていたいとか、友達との予定もある…と思うけど、どうして教会に来れているの？

A：用事ある時は来てないよ。教会に来てみんなと遊んだり、話すのが楽しいよね。学校で話す人とは違うんだよね。ここってさ、季節毎に楽しいことあるんだよね、夏だったら公園遊び、秋だったら庭の落ち葉集めて焼き芋、冬はさ、教会の屋根から（雪の積もった庭に）飛び降りるのとか…そんなのがおもしろいよね。つまんないのは、せっかく来ても子どもがいない時さ。

Q：うちの教会ってみんなにとって居心地のいいところ？

A：子どもが多い時って居心地いいよね。無意識だけど案外親がいるから（居心地）いいんじゃないかな。

Q：え！どうして？親とちょっと距離とりたい年頃じゃない？

A：いや、そういうわけでもないんだよね、いなくてもいいけど、いた方が何となく安心感があるかな。

Q：反対に居心地悪い時って？

A：子どもがいない時、知らない高校生とかがわーっと礼拝の見学に来た時、「何かみられてる」って感じしてやだよね。

（フム、フム、なかなかシャイなんだね。）

Q：教会に来てる大人のことどう思ってみてる？

A：別にどうも思わない、考えたことない（小さい時から）ずっとそうだから…でも「たまにはどっかつれて行って欲しい」とか思ったよね。日曜日、親は「どうする？（教会に行くのか）」って聞くけど「行かない」って言えないな。親に気を使う時もあるよ。行きたくない時期ってのもあったしね。成長するとやりたいことの選択肢は増えるんだよね。

Q：みんなの中ではHちゃんが洗礼受けたけど…どう思った？自分もそのうちに…なんて思う？

A：う～ん…（全員考え込んでしまう）。いまいち洗礼受ける意味わかんないよ。いいとは思う。でもま（受けなくても）いいかなあ。受けてもいいと思う時期が来るのかもわかんないよ。

Q：他にみんながこの頃、教会に対して思っていることは？

A：小さい子がいた時はもっと楽しかった、なごむよね。一緒に遊びながら新しい遊びを発見できるのが、小さい子の魅力だよね。この頃は昼のうどんの具がいろいろ工夫されているのがいい！

一応インタビューは終了と思ったのですが、何となく 高3トリオが名残惜しそうで司会者と鼎談！？

《インタビュー2　ティーンズ達3人》

高：普通に家を建てるのとは訳が違うんだろうけど、もっと話し合いしないとだめなんじゃない？
せっかく皆の名前と顔が一致する教会なんだから。

司：（ホント、ごもっとも…）そうだよね（教会が）どんな風になるのか気になる？

高：気になるし、子どもにも聞かせて欲しい、図面とかもあるんなら見せて欲しい。お金があったからって建てられないんでしょう！教会の人みんなの気持ちが一緒じゃないと…

司：そうそう。

高：多分、卒業したら家を出ることになるから（出たいという希望満々！）帰ってきた時、居心地のいい雰囲気は残してもらいたいよ。

司：居心地いいって、もっと具体的にいってみて

高：今のまんまかな。いや、最近大人達、すごく忙しそう、何年か前なら礼拝の後、みんなでアイスクリーム食べに行ったり、温泉行ったりしたこともあったよね。今、そんな雰囲気じゃないよね。

司：そうだね、大人、みんなの親になるけど、世間でいう働き盛りの年代なんだろね。でもだめだね、もう少しゆったりしてないと…

高：大人達はどう思ってるかわかんないけど、自分たちが教会に行きたいって思うのは、聖書の話を聞くとかじゃなくて、みんなに会いたいから、ってのが一番で来てんだよね。

司：そうか…意見聞かせてくれてありがとう！

《インタビューを終えて》

最初は本音が出ないかな…と思ったのですが、進めていくうちに子ども達が、教会に来て多くのことを感じ、大人達をよく観察していることがわかりました。

人と人がどういう関係性でつながると居心地がいいのか、深いところで知っているという気がしました。子どもであっても教会への帰属感が育っていることも嬉しく思ったのでした。

余裕が無く、疲れて笑顔のない大人の一人です。

子ども達から大人のあり方を、教会が何を一番大事にするかを再確認しました！

じまま野菜だより」みなさんの声

・・土のかおりのする皮をむき甘い味に本州にはない北の大地の恵みに自然のすばらしさを感じております。雨の中の作業ではなかったかと思います。皆さんのことを思いつつ味わせていただきます。（新潟Kさん）

我が家では、すごい勢いで子どもたちが食べています。ほとんどレンジでチンでしたが、ためしに薄く切って油で揚げてフライドポテトにしてみたら、これがまた美味。このぶんではあと数日で十キロなくなってしまいそうです。（兵庫Kさん）

うつくしいおいもさんです。ありがとうございました。バザーでみんなに買ってもらって島松をPRしますね！（兵庫A教会）

第一段―北の島松ジャガ元気。自然の恵みと農家の愛を一パイ受けて育った採りたて黄金のジャガイモが届きました。私流皮付きのまま湯がくと一番手の皮がはじけるころが、まさに食べごろ。知人・友人・ご近所へ、おすそ分け嬉しいひと時。幸せ！（大阪Yさん）

簡単メニューに紹介されている、ゆりねご飯早速やってみます。安心安全なゆりね、大切にいただきます。（新潟Tさん）

Akashi 証

「地の塩」
～砕かれた私の思い～

大西　真言

あなた方は地の塩である。
（マタイ5：13）

十一年余前、あまりにも有名なこの一節から男の子に「地塩」と名づけ、悦に入っている私がいました。妻の母は当時、「初孫」と題した短歌集に「世にありて　人を引き立て　自らも　味ある人にと　地塩と名づくる」と詠みました。おばあちゃんとしては、謙虚に円満に周囲と人間関係を結んでいける人に・・・とのメッセージを読み取ったのでしょう。私の思いはそれとはいささか異なり、「世の大勢に逆らってでも小さな真実に身を投じる人」というイメージでした。そして、今思えば何かに引き寄せられるように参加した本田哲郎神父の講演の後では、この名前に「あえて困難に身を投じようとする（意思のある）人、身を投じることのできる（能力のある）人」という一種の優越意識を込めていたことが恥ずかしく思い出されます。

九月九日の北海教区障害者集会での本田哲郎さんの講演について詳しくは書けませんが、要約すると「イエスが“地の塩”と呼びかけた人は能力や社会的立場のある人ではなく、群がるようについてきた病人、悪魔につかれた人、けがれた人、貧しい人など、いわゆる当時の社会で小さくされていた人達だった。そして、釜が崎の現場に立たされた時、ずっと優等生病で空っぽだった自分が、日々の生活にあえいでいる人々との出会いにより変えられた。つまり、神の業が働く主役としての“地の塩”は、神父である自分ではなく彼らの方だった」ということでした。

さて、私の息子の地塩ですが、徐々に広汎性発達障害（軽度の自閉症）が明らかになるとともに、原因不明の病気により視力を大幅に失い弱視となりました。二つの障害が重なることで、私の思い描いていたような「あえて困難に身を投じる」余裕などない人生へと、否応なく歩み出しているわけです。

このようにして、私が息子にかけていた身勝手な期待は現実によって砕かれ、そんな期待を抱くにいたった高慢な心は本田さんの言葉を通して砕かれたと理解しています。

自分で言うのは恥ずかしいのですが、大体のことが人よりも出来ると自惚れていた自分を思い起こします。スポーツこそ十人並みでしたが、幼いころからの勉強、高校生から始めた音楽（合唱から声楽へ）などがちょっとばかり出来たために、仕事の場でも、「人が気づかないことに光を当てることの出来る自分」に満足する、とにかく優越感を満足させることに一生懸命な私でした。

その結果、年齢を重ねることに仕事の場や家庭で思いどおりにならないことが増えてきて、イラだつ自分がいました。宿題を見てやる時、自分のように理解し応用して次に進めないことに怒りをぶつけてしまう。そんな私を、息子の地塩は怖がりながらも気遣ってくれるのでした。

視力を失う以前から、遊びの場でさえ普通の子のようには方法や面白さを理解できず、独りぼっちになりがちだった彼を思い出し、胸が痛むのです。およそ四十年の人生で、大抵のやりたいことはあきらめないでやってこられた私に対し、彼は、たった十一年の間で、何と多くのことをあきらめなければならなかったことか？　けれども、それにくじけずにがんばってきたことか？

今、私の方がこの息子に支えられているような気がしてくるのです。

長年培われてしまった私の生き方が、にわかに変わるかどうかは解りません。ただ講演の後に歩み寄り「将来を思うと、親である自分より先立ってほしくはないが、彼を残しては死ねない」というジレンマに捉われていることを告白しましたが、本田さんは「息子さんは本当の“地の塩”になったから、大丈夫だよ。」との言葉を残して下さいました。この言葉を大切にしたいと思います。

証 Akashi

あなたは
愛されている存在

伊藤　周子

中学校の教員をしているとさまざまな問題を抱えた生徒や親に出会う。「言うこと聞けないのなら出て行け」という口癖の母親を憎み家出を繰り返す子。叩かれるというので話を聞きに行った私に「体でわからせなきゃこいつはどうにもならん」と言った父親。子供に全く関心がなくなって食事代だけ置いていく親。喫煙・飲酒で学校に呼ばれて、「もうしない、これから頑張る」と言って泣きじゃくる子を口汚くののしり責める親。リストカットがやめられない子・メールで知り合った多数の男性と付き合っている子・・・学校という場所から見ていくと子供自身の問題のように見えるのだが、実は周りの大人たちの問題であることが多い。

その子たちに共通しているのが「どうせ自分なんて」という自分を否定する感情だ。勉強もわからない・親には怒られてばっかり、先生もどうせ勉強ができたりスポーツができたりする生徒が大事なんだろう、なんて思っている。友達は大事にするけれど、大人に対しては不信感や反感を持っている子が多い。頭ごなしに叱るときつい目つきで睨み返すが、まず心配していることを伝えると表情は和むことが多い。そしてあなたは先生にとって大事な存在だよ。と伝えると「うそばっかり！」とは言いながらも話をしていくことができる。突っ張っていても優しい言葉には弱いのだ。そして「今どんな夢もってる？」「二十年後何してるかなあ」なんとかそこから自分の生き方を考えさせていく。

最近「夜回り先生」として知られる水谷修先生の講演を聞く機会があった。彼は、ドラッグ・援助交際・リストカットなどの子供たちを救うために全国で講演を重ねている。その中で、こどもたちの背景には、攻撃的な社会があるということを話されていた。社会というのは人と人が認め合う場である。それが何かあればすぐ何が悪いのか犯人探しをして突き上げる。

自己責任といって非難したり、人を見下したりしがちな社会。家でも「何なのこの成績は」「どうしてこんなこともできないの」どんどんと突き上げられる。反対に「ありがとう」「おはよう、今日はいい顔してるね」「疲れているのに悪いね」と優しい言葉があふれ、今の自分がほめられたり、あなたは大事な存在なんだと、伝えられたりする家庭であれば、夜の街に出かけたりリストカットなんてしないだろう、という内容であった。

振り返ってみれば毎日の生活の中では、悪いことばかり目に付いて、生徒に注意したり叱っている回数が多い。一度もほめていない生徒もいることを反省させられた。自分は愛されている・価値ある存在だという感覚を子供たちに持たせたい。自分自身に価値を認められなければ、他の人の価値をも認めることができない。そうなれば自分を大切にするどころか、人を傷つけたりいじめたりすることにも無神経になってしまうのではないだろうか。

イザヤ書にある〈私の目にはあなたは高価で尊い。〉という言葉を大事にして、学校生活の中で、子供たちが自尊の感情を持ち、優しい気持ちで人と関われるように、（あなたは愛されている貴い存在なんだよ）と伝えていきたい。

あきこ牧師の 何とかなるさ 第五話

スタジオ零

徹也牧師が学生時代に集めていたらしい、ベースギターとアンプがそもそもの始まりだった。そこに、中古のドラムセットとギターが加わり、春頃から高校生が飛びついた。場所さえあれば練習したい者たちが、ボツボツ口コミでやってくる。それでは・・・と「スタジオ零（ゼロ）」（スタートの意味と使用料ゼロの意味を込めて命名）として会堂を利用してもらう。

高校の学園祭前がピーク。しかし、防音工事などない教会。利用時間の約束をしたものの、思わず越えたり、なんと窓を開けたままだったり、「何考えているんだ！防音工事くらいしろ！」の苦情も届く。お言葉通りです。工事したいです・・また、その一方で「ようやく聴けるようになってきましたね」と隣家の方の大変寛大な言葉もいただく。

地域の子どもたちが外で遊ぶ姿を見ることがめっきり減り、行事にも集りにくいこの時代。教会が地域の子どもや若者に出会える場、また、ホッと逃げ場として集える場として、スタジオ零はどのように進むのだろう。楽しみだ。

六十一点でいいっしょ

この一年、徹也牧師の「そううつ」はかなり安定して過ごすことができ、感謝であった。しかし、少し力が入りすぎると、不安定になるのは変わっていない。主治医の言葉に幾度も救われた。そのひとつ、なんもいいっしょ～一二〇点満点めざさなくて。六十一点でいい。合格できるんだから」おっしゃってたじゃないですか～。ものたりないくらいでちょうどいい。いまのままで、じゅ～うぶんですよ！」

高い目標をめざしたいのは当然だろう。しかし、到達目標によっては、安定を欠くことになってしまう。その半分よりちょっと多い六十一点、難しいけれどこれをわたしもあなたも共に承認できた時、結果として「そう」も「うつ」も波が小さくてすむ。スーッと力みが取れるからだろう。これは、どの人にも共通することにちがいない。そして、出来なさをもありのまま受け入れてくださる主のまなざしがそこに注がれている。

魂の声

四十代が多い島松のメンバー。四十代だけでなく、今年はみな本当に忙しかった。

転勤、転職、体調不良、子ども達のスポーツや部活動。家族の病気。気がつけば、十二月を迎えていた。

私自身もその一人であつた。疲労感と対話不足のなかでも、神さまは次々と役割を与えてくださる。

「島松だより」の発送も例年よりも遅れてしまった。まだですか？という問い合わせを頂き、うれしい声援として響いた。

ようやく、みんなのエネルギーが少し充電されて来た気配を互いに感じ、早い方は秋に書いてくださった原稿がやっと版下作成担当者へと送られた。

忙しい社会についていけない魂の声がゆっくり作動し始める。「全ての事に時がある」その時を味わっている。

編集後記

二十年にわたる大きなお支えを、心より感謝申し上げます。みなさまのお祈りに勇気づけられ、これからも歩んで行こうとしております。「六十一点」という目標は、ときに辛く、やるせないものです。「ものたりないくらいでちょうどいい」は、私の捨て台詞を主治医が拾って下さったものです。合言葉になりました。（辻中徹也）

今年度は、気力も体力も尽き果てて島松だよりを投げ出してしまいました。それでも溢れる程おぎなわれて形となり、皆さんに読んで頂くことができることに感謝です。（大西由香里）

うそ、偽りの多い時代の中で、そのまんま」が人の心を動かしひかりを感じる。島松伝道所もそのまんまを大切にして、やっとのことで島松だより」の完成です。これまでの20年のお支えを感謝すると共に、これからも島松と共に歩んでみませんか！（亀岡　徹）

秋から、お隣の教会の幼稚園の園長としてお手伝いをしている。もちろん次の園長が来られるまでの間。

「おばあちゃん（ドキッ！）みたいにやさしい」（ホッそういうこと・・）子どもの笑顔に癒されつつも、忙しくなって、みなさん、ごめんなさい。

そして、お助けいただいき感謝です。（辻中明子）

苫小牧地区と互助伝道　「主にある交わり」たちの挑戦

日本キリスト教団島松伝道所　　教会員　　亀　岡　　徹

地区の八つの教会と伝道所の中でひと月に五週ある月に関して五週目を互助伝道として位置づけ、地区の牧師たちが他の地区内の教会での講壇を担当する。時には、共に信徒も同行し礼拝を守っている。
その昔、地区に三名しか牧師がいなかった時代から始まった共同牧会の中での互助伝道であるが、特に今年度は苫小牧地区の四教会は代務という状況の中で益々この業は必要とされ今現在も豊かな礼拝を守ることができている。八教会の礼拝担当者がひとつの表にまとめられ、いつも互いに覚え合っている。
「自分の教会に牧師がいるなら、日曜日の礼拝説教はその牧師が行うべき」が教会の常識かと思うが、苫小牧地区ではごく当たり前に様々な牧者との交わりを楽しんでいる。ただ不足しているから補うのではなく、そこには主にある人と人との交わりと関係性が生み出されている。
八つの教会がそれぞれの特色を持ち歩んでいるが、時には地区内の教会同士であっても「何を考えているのか」わからなくなることもある。そこで、突破口となるのがこの関係性である。「こじれそうな問題」「すんなりと進みそうもない課題」が意外とすーとうまく運ばれることがある。苫小牧地区の教会にはどこか「話せばわかる」というような環境が整われているように思う。どこの教会も必ず抱えている教会内の問題も、是非交わりと関係性を楽しみながら共有した時に、あたらしい一歩が見えてくる。

２０年の感謝　そしてこれから

滝口　孝牧師によって開始した宣教協力募金も、全国のみなさまの祈りによって、２０年間という長い期間行うことが許されました。振り返りますと、次々と神さまから与えられた課題がありましたが、私たちなりに向き合い、御旨を問いつつ歩んでくることが出来ましたのは、一度もお会したことが無い方々も含めて、多くの方々の祈りに背中を押していただいたからだと感じています。あらためて感謝の思いで一杯です。
今、またあらたに「会堂建築」という課題を与えられており、ゆっくりした歩みですが、祈りつつ向き合っております。まず語り合い、祈ることが建築への「基礎工事」だと示されています。今年度から始めました「しままつ野菜だより」へのご協力も嬉しい「つながり」の力として、おおいに励まされています。いただいた「つながり」を大切にしつつ、これからも、島松らしく試行錯誤しながら歩んで行きたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。　今年度も、支援を必要としている、多くの教会や厳しい状況に置かれている教会があることを覚えつつ、ご協力をお願いさせていただきます。

島松伝道所　一　同
牧師　辻中徹也　辻中明子

募金に賛同してくださる方々　(敬称略・順不同)

西岡昌一郎【北海教区議長】　久世そらち　【北海教区副議長】　西岡裕芳【北海教区書記】
山本光一【北海教区地区幹事】　糸井国雄【錦林教会牧師】　入江清弘【香椎教会牧師】
岩井健作【隠退教師】　宇野稔【岡山教会牧師】　榎本栄次【今治教会牧師】
大門義和【高石教会牧師】　岸本和世【元浦河教会牧師】　黒多健【向島伝道所牧師】
小西望【仙台北教会牧師】　塩見耕一【北星余市高等学校宗教主任】　滝口宣【所沢教会牧師】
武井義定【松山古町教会牧師】　中谷哲造【隠退牧師】　中村博【五泉園長】
西尾市郎【うるま伝道所牧師】　野本真也【同志社大学神学部】　平田義【愛隣館ディサービスセンター所長】　府上征三【洛陽教会牧師】　藤田公【隠退教師】　細川覚【石巻栄光教会牧師】
宮島利光【隠退教師】　森脇忠雄【隠退教師】　山本真司【同志社国際高等学校宗教主任・錦林教会牧師】

日本キリスト教団北海教区島松伝道所

宣教活動推進募金のお願い

苫小牧地区　島松伝道所協力委員会

― しままつ伝道所をご支援ください ―

『 夢の居場所で夢を見る 』

室蘭知利別教会　橋本　邦彦

夢の中で夢を見ることがあります。大きなケーキにかぶりつこうとするまさにその瞬間に目覚まし時計の音で目を覚まし、「おしかったなあ。」とぶつぶつ呟いていると、頭に水がかかってきて、「冷たい！」と目を開けると、ペットの豆柴犬にペロペロなめられていたというような経験です。

「教会は浮世離れしたところだね。」と言われることがあります。社会的な力もなく、経済的にあまり恵まれていないにもかかわらず、大の大人が集まって「アーメン、アーメン」と祈っては、新しい会堂を建てようとか、隣接地を購入してすてきなお花畑を作ろうとか語り合っているからです。ヨエル書３：１に主の霊が注がれると「老人は夢を見、若者は幻を見る。」とあります。教会は夢見る居場所なのです。

島松伝道所は夢見る力では、他のどの教会にも負けません。ただし、夢を見るためには、その居場所が確保されなければなりません。居場所作りには、一人でも多くの共に夢を見てくれる人が必要なのです。皆さん、島松伝道所の夢の居場所作りに参加しませんか。そして、一緒に夢を見ませんか。皆さんとの夢の共有によって、夢は実現していきます。実現した夢は、私たちにさらに新たな夢を与えてくれるでしょう夢の居場所で夢を分かち合うことで、いつでも、いつまでも、私たちは希望を持ち続けて歩んで行けるのです。

『 島松ファンのみなさまへ 』

苫小牧地区　島松宣教協力委員会　委員長　矢崎 和彦(苫小牧弥生教会)

行財政改革、効率化などを求める社会の流れに逆らって、苫小牧地区の教会代表者会議では島松伝道所に対する第 5 期宣教協力(2007 年～2011 年)を全会一致で確認しました。これは「大きな教会」が「小さな教会」を支えなければという発想から生まれてきたものではありません。島松伝道所の歩みに私たちの教会が希望を見出してきた実りだと受け止めています。

ファイターズの優勝は多くの人に希望を与えました(ドラゴンズファンの人、ごめんなさい)。「SHINJO」をはじめ、選手たちは何よりもファンを大切にし、ファンの応援が選手たちを強くしました。苦しい時代から応援していた人もいるでしょうし、私みたいに、にわかファンもいるでしょう。島松伝道所も島松ファンと一体になって、今暗闇におかれているその人に希望を備えるための教会形成を進め、試行錯誤を繰り返しながら歩んでいます。

「障がい者と共に」、「弱さを元手に」、「その人らしく」・・・これらのテーマは、島松伝道所がファンと一体となって紡ぎだされてきたものであり、イエスの福音をこの世界に示し続けようとする希望という名の実りだと思います。

財政的には積立金にも底が見え、非常に苦しい状況が続いています。「ましてや会堂建築なんて・・・」という声もあるでしょう。しかし、多くのファンのお祈りとお支えによって、島松伝道所はまた新たな希望の実を生み出していくと信じています。島松伝道所の歩みをお支えください。

ー募金要領ー

募金目標額　　３，７００，０００円

募金期間第五期５年間　(２００７年～２０１１年)

献金方法　月毎・年毎・随時

郵便振替口座送金先　02750－1－19793　　日本基督教団島松伝道所

しまつ野菜だより　引き続き今年も！

しまつから大地のめぐみを全国へ

しまつでは、昨年来 会堂建築についての話し合いを進めています。
全国の皆様に支えられている教会として、多くの方々にしまつの魅力をお伝えしようと昨年から地元の農産物の通販を始めました。

お届けする野菜を作っているのは、「恵庭アグリ企画」という生産者グループの代表吉田農場の吉田俊二さん。農薬を通常の半分以下に抑えることを目標に、安心して食べられるおいしい野菜作りに、ご家族で取り組んでいます。

吉田さんの"しまつ野菜"とは？

とうもろこし　糖度の高い早朝にもいで、もぎたてのおいしさを保持するため冷蔵しクール便でお届けします。

じゃがいも　きたあかりという北海道で今や主流の品種。ホクホク感と甘みがあります。煮くずれに注意してお料理して下さい。

かぼちゃ　北のこころという恵庭で改良された品種で甘みが強い最高級品種です。日持ちはしないので早目にめしあがり下さい。

たまねぎ　空知黄というやわらかく甘い品種です。通常の2割以下の農薬しか使わないので見た目はよくありませんが安心してお食べ下さい。

にんじん　向陽という品種で赤みが強く、甘みが多いです。日持ちさせるため土つきでお送りします。

ゆりね　山積まで5年かけて丹精込めて作っています。ほのかな甘みとなめらかな食感で多くのファンがいます。

吉田さんのコメント

一人の力は弱い。ですから自分を助けながら人を巻き込み　人に助けてもらい、また人を助ける。そんなことを思って、恵庭アグリ企画を立ち上げ9年目になりました。自然の堆肥、きゅう肥を使って健康な土づくりをし、人も自分も安心して食べられるものを作っていきたいと思います。

実際に農場での収穫体験もご希望の方大歓迎です。

2007年 販売予定の しまっ野菜

No.	取扱期間	販売予定の野菜	参考価格（送料込）
A	7月末 ～ 8月末	鮮度抜群 朝もぎ とうもろこし 10本（L～2L）	3300円
B	9月初旬 ～ 10月中旬	ほくほくじゃがいも（土付あり） 5kg 10kg	5kg 2500円 10kg 3000円
C	9月初旬 ～ 11月中旬	しまっ野菜セット 詰め合わせ 10kg （かぼちゃ 玉ねぎ にんじん じゃがいも）	3800円
D	12月初旬 ～ 12月中旬	しまっこ育ったカリカリ （Lサイズ 1kg・2kg・5kg） ※目安 1kgで9個程となる	1kg 2500円 2kg 4000円 5kg 6400円

参考価格は 天候、収穫状況により
変わる場合がございます。

それぞれの収穫時期が 近づきましたら、ご案内を発送いたします。
ご希望の しまっ野菜の No. A・B・C・D に ○ をつけて
このまま FAX してください。 FAX 0123-36-7275

メールでも承ります。e-mail アドレス
chihosan@m21.alpha-net.ne.jp

案内を 郵送 ご希望の場合は、下記に ご住所を記入して
FAXを お願いいたします。

しまっ野菜だより 案内 お届け先

ご住所 〒

お名前

FAX番号

e-mail アドレス